

韓国研修を振り返って(学生レポートより)

様々な年代や学部の日本語学習者の方と交流して、韓国の人にとって日本語を学習したいと思った時、学習できる場が多くあるのだと実際に目で見て、感じる事ができました。また、学習できる場が多くあるということはそれだけ日本語が身近な言語でもあるのだと思いました。日本には外国語を学ぶ機会も学ぶ場もまだまだ少なく、韓国語のような英語以外の外国語を学ぶには難しいのが現状だと改めて気付きました。韓国に行く前は、韓国は結構日本語が通じるでしょ、という話をよく耳にしていたのですが、日本語がちゃんと通じるのは、明洞にある化粧品のお店くらいで、他のお店、とくに食事をするには韓国語ができないといけないというのは意外で、やはり外国だし、よく考えれば当たり前だと思うのですが、少し驚きました。国際交流基金や徳沼高校の実際の日本語の授業を見学できたのは本当に勉強になりましたが、私個人は今まで勉強した韓国語が交流するのに少しは役に立ったというのも大きな出来事でした。勉強した外国語が相手に通じるという喜びを感じる事が無かったので、今回の研修では韓国語を使う機会が思いのほか多く、相手に伝えられる喜びを感じる事ができました。一方で、言いたいことが言えない、言っていることが完全に理解できないという思いも、もっと韓国語を勉強して、韓国語が話せるようになりたいと以前にも増して思うようになりました。私が韓国語の通じる喜びを感じたように、今回交流した方々も私たちと話をして自分の日本語が相手に伝わる喜びを感じてくれていたらいいなと思いました。今回の研修で、外国語学習者の気持ちを今まで以上に身近に感じる事ができたのは、私にとって、本当に良い経験になりました。

【日本語教師の役割について考えたこと】

戦争記念館に行き、国と国の間には過去に様々な問題があり、その事実は消えないことを改めて考えさせられました。日本語教師とは、同じ文化に生きる人、生きて来た人にその人の文化である日本語を教えるわけではなく、日本とは違う文化、日本人とは違う生き方をしてきた人に、その人の文化ではない日本語を教えなければならないのです。これは、日本はこういう文化を持ち、こういう生き方をするのだと、学習者に日本語を通して伝える役割が日本語教師にはあるのだと思います。そのためには、日本語に関する知識だけではなく、日本に関して幅広い知識と教養、日本にかかわらず歴史について知っている必要があるのだと感じました。そして、その知識をあくまで中立の立場で話すことができなければならないのだとも感じました。日本語を教えるというのは、日本語は他の言語に比べてここが素晴らしい、こんなところが優れていると教えるのでは全くなく、他の言語に比べてこういう構造で成り立っている、というよ

うに、日本語のみを肯定するような発言は許されないし、他の言語を否定するようなことも絶対にあってはならないのだと思いました。歴史についてもそうです。学習者は日本語教師が日本人の代表であるというような固定概念を持ってしまう可能性が高く、その教師がある国に対して否定的な発言をしたら、「日本人は」そう思っているのだと感じてしまうのではないかと思います。国に対するイメージや印象、自国との関係に対する思いは、日本の高校や中学で授業する際に気にする必要のない、生徒に前提としてある概念が全くなく、日本語教師はそのことに注意しなければならないのだと改めて思いました。中立の立場であるというのは、日本語教師にとって特に必要な考え方であり、役割、立場なのかなと思いました(I・Yさん)。



たくさんの日本語を学習する学生と交流し、毎日違う学習者に会い、別れましたが、それぞれが印象に残っています。特に、文化探訪リサーチで一日中一緒だった学生と高校生が印象的でした。文化探訪リサーチでは、私が書いた計画書(案)を具体的に実現するためにいろんなことを調べていてくれて、抽象的で分かりにくい計画書から楽しい一日を計画してくれて、感謝の気持ちでいっぱいです。楽しく、おいしく食べているだけで、韓国の学生は、下調べや通訳や案内などたくさんの負担をかけてしまいました。最初は、ぎこちなく黙々と歩いていましたが、夜の会までにあんなに打ち解け

ることができて、とても遠いさびしい別れではなく、また会える気がする友達と別れる時のような気持ちでした。高校生と交流したときは、雨でテンションが下がっていましたが、腕を組んで、相合傘ができて、かわいい妹ができたような不思議な気持ちになりました。通訳をしてくれていたリーダーは、とてもしっかりしていて、年下に思えませんでした。もう少し英語や韓国語ができれば、もっと会話ができるし、もっとスムーズに進むのにとじれったく感じる場面もありましたが、必死に日本語の単語などで伝えようとしてくれる姿がうれしかったです。そして、もっと様々なことを勉強して、学習者の役に立ち、サポートできるようになりたいと思いました。

【日本語教師の役割について考えたこと】

先生や教師という職業は、生徒や学生の上から様々なことを教える絶対的な立場のイメージでした。しかし、日本語学習者と交流する中で、日本語教師は、日本語を学びたいという学習者のやる気や積極性に応え、サポートする役割だと思いました。日本語や日本の文化などに興味を持ち、日本語を学習する人がいるから、日本語教師がいるということを忘れてはいけなと感じました。また、日本語教師は、学習者に日本語を教えてあげるのではなく、学習者が求める日本語の学習の手助けであるように感じました。交流を通して思ったことは、学習者の求めがあるから、成り立つ仕事であるということです。また、学習者のために必要なことは、日本語の知識だけでなく、日本のことや相手の言語や文化や歴史についての理解などたくさんありました(O・Aさん)。



今回韓国の研修旅行に行って一番感じたのは、正直英語の必要性でした。私は「アンニョンハセヨ」と「カムサハムニダ」しか韓国語が分からなかったし、ハングルも一文字も読めませんでした。それでも一週間どうにかなったのは、英語のおかげだと思っています。ものを買うにしても、日本語で書かれていなくても英語表記がされているものが多いですし、食べ物屋さんのメニューも大体は英語が併記してあります。一回アイスを食べに行きましたが、その時も英語で注文したら通じました。また、最終日に日本に帰る飛行機のゲートが変わった時にも英語が役に立ちました。もちろん韓国語が分かればそれに越した事はありませんが、世界共通語の英語の強さを実感しました。でも、やはり韓国語を勉強してから行けば良かったとも思いました。少しでも韓国語が分かっていたならば、もっと知り合えた人みんなとコミュニケーションができたと思います。買い物もしやすかったかもしれません。人間はどうしても言葉を頼りにしてしまうので、共通の言葉が多ければ多いほど過ごしやすかったんだろうと思います。他には、韓国の方の人柄に助けられたと思います。皆さんすごく優しく、すぐに仲良くなれました。正直行く前までは時期的に不安がありましたし、そんなに韓国という国に興味も持っていなかったのですが、今回の研修旅行で出会った方々のおかげで韓国のイメージが良い方向に変わりました。それは出会った皆さんのおかげだと思っています。自分で思っていた何十倍も楽しい一週間でした。行って良かったです。

【日本語教師の役割について考えたこと】

日本語教師は外国の方に日本語を教えるというだけでなく、国と国を繋ぐ役割もあると思います。通訳の方や国際的な仕事をしている方とはまた少し別の形で国際間に立っている存在なんだろうと思いました。グローバル化が進んでいく社会の中には、良い事だけがあるわけではありません。どうしても国同士で衝突してしまう事があるはずですが、でもそれを解決するのに必要なのは共通した言葉だと思いますし、日本の場合それは日本語です。その日本語を、母語が違う言語の方達に教える日本語教師は、そういう意味で国と国を繋いでいるのではないのでしょうか。もしくは、そういう架け橋になる人達の手助けをする役割もあると思います。また、日本語という言葉だけでなく、日本というものの全体を教える立場でもあるんだろうとも思いました。きっと今回出会った韓国の方達が持っている日本のイメージや、日本についての知識には、少なからずそれまでに会った日本語教師の方に教わった事や、その方の影響があるはずで、そういうところにも日本語教師の役割は存在しているのではないのでしょうか。日本語を勉強する外国の方の、日本の入り口を作り、その先日本と学習者の方を繋ぐのが日本語教師なのだと思いました(S・Mさん)。

